

【大河原町】 校務DX計画

文部科学省「GIGA スクール構想の下で校務の情報化の在り方に関する専門家会議提言」に基づく次世代の校務デジタル化に向け、文部科学省が公表した「GIGA スクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に示されている、教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現するため、本町において、次に掲げる事項を重点的に推進していきます。

1 校務支援システムのクラウド化

現在、校務支援システムについては、オンプレミス(町役場に備え付けのサーバー)で運用しており、学校現場においては教務・成績管理などの校務で利用されています。

グループウェア・保護者連絡・備品管理などの汎用クラウドツールと連携できるシステムを早期に導入し、教職員間での会議資料のペーパーレス化、教職員等の事務負担軽減・コミュニケーションの迅速化や活性化を可能とする環境を構築するため、文部科学省「次世代の校務デジタル化推進実証事業」の状況を注視しつつ、教職員と学校現場における課題・ニーズ等の情報共有を図るなど、次世代の校務デジタル化に向けた校務系ネットワーク・システム等の現状分析や望ましい校務の在り方に関する検討を行い、パブリッククラウド上での運用を前提とした校務支援システムの早期クラウド化を目指します。

2 次世代の校務デジタル化に向けた各種ツールの活用

上記1と合わせて、校務の効率化や授業の質の改善を図るため、授業支援ソフトやデジタルドリルで蓄積された学習系データ、MEXCBTなどの教育行政データ、児童生徒の出欠及び成績情報等の校務系データなど、様々な教育データを自動的に収集・分析・加工して簡潔にまとめ、集計値や表、グラフなどで可視化するための管理ツール(データ連携基盤ダッシュボード)の導入やセキュアな環境下での校務における生成AIの活用に向けた検討を行います。

3 校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業の一掃

本町で導入している校務支援システムは、児童生徒の名簿等の情報入力を手作業で行っています。これにより教職員の校務負担が増しています。上記校務デジタル化に合わせて、校務支援システムの見直しを図り、CSV形式で作成した個人情報ファイルを取り込んで登録できるようにし、教職員の校務負担を軽減させていきます。

4 FAX、押印の廃止

令和5年12月に文部科学省が公表した「GIGA スクール構想の下での校務DX化チェックリスト」の基づく自己点検結果の報告によると、一部でまだ保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要

な書類があり、クラウド環境を活用した校務 DX を大きく阻害していることが指摘されていることから、災害や教育ネットワークの不具合時など FAX の方が電子メール等より効率的な場合を除き、FAX・押印の原則廃止に向けて、継続的な見直しを行っていきます。